高校生による海外エネルギー事情研修会　レポート

むつ工業高等学校　　小向　和真

今回の研修では、フランスとスウェーデンのエネルギー事情や文化を知ることができました。

フランスでは、世界文化遺産であるモンサン・ミッシェルやランス潮力発電所、アレバ社のラ・アーグ再処理工場、グリニャール高校に行きました。

モンサン・ミッシェルは、とても大きく、広かったです。フランスの歴史に触れることができて、感動しました。

ランス潮力発電所は、世界で最初の潮力発電所で、潮の干満の差を利用して発電していることを知りました。潮の干満は、予測が可能であるため、安定した電力供給ができるとともに、エコで、環境にやさしい発電システムであることがわかりました。この発電所で使用しているタービンは、羽根の角度を３５°まで変えられるので、２方向のどちらの方向からの流れでも、タービンを回転させることができると聞き、とても驚きました。また、この仕組みを持ったタービンを使用しているのは、世界でここだけであるということも驚きでした。他にも、発電所の周りに生息している生物への影響を最小限にし、周りの風景を損なうことのないように外観にも気をつけていました。

ラ・アーグ再処理工場では、発電以外の原子力関係の事業を行っていることがわかりました。特に印象に残っているのは、使用済燃料を貯蔵しているプールで、大きさが六ヶ所にあるプールの５倍の大きさがありました。

グリニャール高校では、現地の高校生と交流してきました。フランスでは、エネルギーの教育や模型を使った実験が小さいころから行われていることを知りました。それが、エネルギーに対しての興味、関心を持っている理由であると思います。日本でも小さいころからのエネルギーの教育を行うべきではないかと思いました。

フランスは、原子力と水力に力を入れていることがわかりました。文化や建造物などの違いもたくさん見つけることができて、とてもおもしろかったです。

スウェーデンでは、ハンマルビー・シェースタッド、フォルシュマルク中・低レベル放射性廃棄物貯蔵施設、カテドラル高校に行きました。

ハンマルビー・シェースタッドでは、エコタウンとして、様々な環境に対する配慮をしていることがわかりました。スウェーデンの９９％のゴミが再利用可能で、暖房や水温を上昇させるための燃料として使われていました。街を見学したときはゴミが全然落ちていなくてきれいでした。私は、１年生のときに、

地球環境に関する授業があり、地球環境に興味を持っていました。今回の研修でこのようなエコタウンを見学することができて、とても良い経験になりました。

フォルシュマルク中・低レベル放射性廃棄物貯蔵施設では、スウェーデンの原子力発電所や病院、研究所などから廃棄物を受け入れていることがわかりました。廃棄物は３０年ほど冷却します。しかし、スウェーデンでは再処理を行っていないと聞き、驚きました。他にも、中間貯蔵施設や原子力発電所もありました。

カテドラル高校では、現地の学生がしたエネルギーに関するプレゼンテーションが印象的でした。スウェーデンのエネルギー事情を詳しく説明してくれたので、わかりやすかったです。やはり、フランスと同様に、エネルギーに対する興味をとても持っていることを感じました。交流では、自分の好きなマンガやゲームについて話ができて、とても楽しかったです。

この研修会で、普段はあまり接する機会がない英語にたくさん接することができたので、とても良い刺激になりました。また、自分の英語の能力の低さを思い知らされました。これからはさらに社会のグローバル化が進むと思うので、英語を一生懸命勉強しようと思う向上心が身に付きました。この向上心を英語の勉強だけに留まることなく、他の勉強にも活かせるようにしたいです。

海外の学生は、エネルギーについてとても関心や知識、自分なりの考え方をしっかりと持っていました。自分の関心や知識、考え方がまだまだ甘いと感じました。

海外の文化や食事、風景など見るもの、体験することすべてが初めてのものばかりで、とてもおもしろかったです。本当に有意義で充実した楽しい旅でした。この研修会は、将来絶対に役に立つと思います。この研修会に参加できたことを誇りに思い、経験し、得たものをこれからの生活に活かせるように頑張りたいです。